

貧困の子どもも1億人増

コロナ影響 ユニセフ支援訴え

【ニューヨーク共同】国連児童基金（ユニセフ）は8日、新型コロナウイルスの流行により、さまざまな形の貧困状態に陥った子どもが世界で推計1億人増えたとの報告書を発表した。フオア事務局長は、新型コロナ

はユニセフの75年にわたる歴史の中で「最大の脅威」だと警鐘を鳴らし、支援拡大を訴えた。報告書は、経済面だけでなく、教育や健康、衛生などの面で不十分な状態を含めて「貧困」と位置付けた。

こうした状態にある子どもは、2019年比で約10%増え、計約11億人に上ると推計。子どもの生活水準が新型コロナウイルス流行前に戻るには、少なくとも7〜8年かかるかと分析した。報告書はまた、感染対策

の学校閉鎖により、ピーク時には世界で16億人以上の子どもが学校に通うことができなかったと指摘。貧困の拡大に伴い、児童婚や児童労働の増加も予想されるとした。